

会 議 報 告 書

会議名	令和元年度第1回富士見公民館運営推進委員会
日 時	令和元年7月5日（金）午後1時30分～2時35分
場 所	富士見公民館 2階 第3会議室
出席者	<p>（委員 7人） 齋藤委員長、白石委員、大手委員、沛野委員、樺澤委員、 青木委員、奥田委員</p> <p>（事務局 2人） 新井館長、橋本副主幹</p>
欠席者	小林副委員長、櫻井委員、遠藤委員
傍聴者	1名
議題	<p>1 令和元年度富士見公民館運営の基本的事項について</p> <p>2 令和元年度富士見公民館事業計画について</p>
配布資料	<ul style="list-style-type: none"> ・次第 ・令和元年度第1回富士見公民館運営推進委員会資料
結果概要	<p>○委員委嘱式 新委員10名に対し、委嘱状を交付した。</p> <p>○委員会 令和元年度富士見公民館経営の基本的事項、富士見公民館事業計画及びコミュニティデザインを新井館長から説明した。</p>

主な意見・質疑応答

(白石委員)

一階、二階のロビー奥の展示物に夕日があたるので、日よけ対策をお願いしてあるが、なかなか改善されない。その後、どうなりましたか？

(事務局)

平成30年度にブラインドの設置を要望しましたが、市内の公民館で老朽化（雨漏り等）が激しい施設があり、それらを優先的に修繕する必要があり、まだ実施に至りません。来年度については、遮光フィルムで要望する予定です。

(大手委員)

公民館の利用及び自主学習団体は増えてきているが、高齢化が進んでいる。ねらいに「生涯学習社会に即応し」と、あるが、一番利用したい世代のお母さん、家庭の中に閉じこもって、行くところも横の繋がりも持てないお母さんが訴えていることは「自由にいつでも利用できる部屋が欲しい」ということです。以前は園の部屋を貸していましたが、今は貸すことができないのが現実です。元気21の様な予約ではなく、利用できる部屋が公民館にもあると良いと思う。講師等と呼ばないで、子育て世代のお母さんが気軽に公民館の空いている部屋をいつでも利用できるのが必要だと思う。

(事務局)

0歳児からの講座は行っています。公民館は利用規則があり、縛られていると思われがちですが、現在は貸し館の利用頻度が高く、いつでも自由に使える部屋を用意することができません。お母さん方が集まってお話しするのに部屋ではなく、抵抗があると思いますが、一階二階のロビーを開放しています。夏にはクールシェアスポットとしても利用できます。また、子育て親子支援講座に関しては、常に講座終了後も活動を続けてもらえ、子育てサークルが立ち上げられるように支援を行っていますが、なかなかグループの立ち上げまで至ることはありません。今後も引き続き公民館として最大限の支援は続けていくつもりです。

(大手委員)

公民館の管理上、難しい面があると思う。今年から日を決めて園庭開放をして子育ての支援をしている。申し込みがある公民館事業となると小さい子供をもっているお母さんは突然、子供の具合が悪くなったりするので敷居が高く、決められた日になかなか行けない。

(樺澤委員)

子育てをしているお母さん方が行くところがないというが、富士見には NPO 法人で児童館が2カ所あります。そういう施設は望んでいないのでしょうか。利用したら良いのでは

(齋藤委員長)

渋川にはいつでも行ける施設がある。時間は関係なく付いている人もいる。外に出たついでに寄れると聞いた。

(白石委員)

何年か前に公民館の二階で中学生が勉強しているのを見かけた。自由に時間にも左右されないので利用しているのだと思う。

(沖野委員)

保健推進員でお母さん講座の託児を依頼された時に、子どもと部屋が一緒だとお母さんたちの話し合いができなく、のんびり過ごせない。特に若いお母さん達はこういう時ででないと話ができないので気軽にいつでも行ける場所が欲しいと言っていました。

(白石委員)

文化協会で文化祭を実施しているが、年々高齢化のためか出し物が減っている。芸能発表を広めなくてはと思っていますが、おはなしの会さんに参加いただき、舞台上で話を聞かせるのはどうかなと思っています。是非、読み聞かせで参加していただき、幅を広げていただきたいと思います。また、中学生の絵画や習字等の展示もしてもらえたら幅が広がると思っています。他との繋がりをもっともう少し広めたい。

(青木委員)

地域とともに教育活動を行うのは大変大事だと思う。公民館の事業で小学生の参加できるものをたくさん実施していただいていることは大変ありがたい。バレーボール教室は定員を超えた参加者がいたり、食育教室は親子で体験できる事がとても大事なことだと思う。フレンドシップについて、宿泊を伴う行事は子どもたちの健康管理、救急体制に気を遣うと思います。一泊のフレンドシップキャンプの成果はあると思うが、難しさもあると予想している。宿泊ならではの得難い体験はもちろんあると思うが、一方課題もあると思う。参加者は20名前後で、宿泊でなければもう少したくさんの子が参加するのかなとも思う。公民館としての成果と課題はどう捉えているのか。

(事務局)

昨年までは4年生以上で実施していましたが、学年が下がれば下がるほど管理・監督は大変です。VYSと少年自然の家の職員の皆さんにサポートしていただき、帰りの会が終わった後は本当にほっとした気持ちになります。危機管理、子供たちの夜のことを考えるととても大変な事を毎年しているんだなと実感します。今年は原点に戻り、中1ギャップ解消も考え、募集を6年生にしました。その成果が出れば良いと思っています。

(青木委員)

中学校へのギャップの解消は私たちも考えていかなければならないと思っています。学校としてもできる範囲のことはやっていきたいと思う。

(奥田委員)

子ども達が社会に出て活動する体験的な活動はとても大切な事だと思う。今年も「のびゆくこどものつどい」に100名ほど参加させていただいた。子どもたちが生き生きと地域で活動している姿を見させてもらいました。今年はテスト前の部活動が無かった時で本来なら、家で勉強するときでしたが、子どもは自ら進んで参加している。そこで活動する中でたくさんの大人に認めてもらったり褒めてもらったり、いろんな人に「良かったよ」と声掛けしてもらうことで子供たちが自信を持って「頑張ろう」という気持ちになるし、富士見に対しての郷土愛も育まれていくと思う。可能な限りいろんなところで活躍させていただければと思うし、できれば子ども達に主体性を持たせてイベントの企画部分にも子供たちに考えさせてもらうところもあると良いのかなと思う。